

教育民生委員会 行政視察報告

4月23日から25日にかけて、委員5名、執行部1名、事務局随員1名で、福島県郡山市・宮城県仙台市・宮城県柴田郡川崎町を視察してまいりました。

■福島県郡山市

～ペップキッズこおりやまについて～

この施設は、東日本震災により子供たちの運動不足の解消やストレスの発散のほか、体力増進を図るため、平成23年12月に開設されました。建物は元スーパーマーケットで、その所有者が設備を含め改修したのち、市が無償で借り受け、管理運営をしていました。平成26年度から管理以外の運営について、NPO法人郡山ペップ子育てネットワークに委託をしているとのことでした。

これまで、施設のリニューアルを2回行ったこともあり、利用者の大幅な減少はなく、利用者の約7割が市内の方で、リピート率も高く、今年の3月末で約29万6千人に達し、一日平均約932人の利用があるということでありました。

施設利用料金については、国の被災者支援総合交付金を活用し、今のところは無料として



ペップキッズこおりやま

ていますが、今後も遊具の高額な修繕が必要なことから、交付金の削減後、利用料金の徴収等を含め、運営方針をどのように定めていくのかが、今後の課題ということでありました。

■宮城県仙台市

～せんだいメディアテークについて～

せんだいメディアテークは生涯学習施設の拠点であり、図書館、ギャラリーのほか、目や耳の不自由な方のための情報提供機能を併せ持つ複合施設です。

施設内の市民図書館は市直営ですが、その他の施設は、公益財団法人仙台市民文化事業団が指定管理者となっています。

施設全体では、年間100万人の来館者があるものの、図書館の登録者数及び貸出数が少ないため、利用促進につながる取り組みをそれぞれの年代にあわせて行っていました。



せんだいメディアテーク

その他では、平成28年10月から意見箱を設置しており、利用者の声から図書館の魅力度アップにつなげていきたいとのことでありました。

■宮城県柴田郡川崎町

～旧小学校活用事業について～

平成24年3月に、4つの小学校が廃校となったあと、川崎町では校舎の有効活用を図るため、地域住民の同意、意向及びニーズに配慮しながら住民の意見が反映される組織体制を整え、民間事業者のノウハウを積極的に活用する「旧小学校活用事業」の提案募集を行いました。

その募集要項には、「町は、建物を有償で貸し付けし、施設の改修、維持、光熱水費等に係る費用は、全て借り受け事業者が支払う」ことのほか、付帯条件として、「施設で雇用するときは、地元住民の採用を優先することや、「地域活性化を目的として、住民と連携し、地域発展のため協調した事業に取り組み」ことなどが盛り込まれてありました。

4つの廃校小学校は、平成29年4月にそれぞれ別の民間事業者と賃貸借契約し、新しい施設として再生され、視察をした旧



イーレ!はせくら王国

支倉小学校は、株式会社東北農都共生総合研究所が活用事業者となり、食と体験の観光交流施設「イーレ!はせくら王国」としてオープンしていました。

施設のテーマとコンセプトは、「農産物直売所、レストラン、体験交流を備え、誰もが楽しめる「コミュニティ」であり、立場や世代を超えた関らんがでぎ、かつ利用価値のある場所を目指していました。また、経営理念として地域「コミュニティ」の再生、地域住民と事業者との共創、地域ブランド力の向上を念頭に置いているそうです。

イーレ!はせくら王国は、地域複合観光交流拠点として旧支倉小学校を活用し、持続可能な地域経営の実現に向け、今後もチャレンジと進化を続けていくとのことでありました。

■視察を終えて

今回の視察は、加賀市が抱える課題を考える上で、各先進地の事業及び取り組みを視察しました。

視察内容はそれぞれ異なりますが、民間の活力を最大限に生かし、地域のニーズ、意向に近づけながら地域に根差した取り組みを行っていました。

この視察で学んだことは、今後、委員会の調査・研究に活かしていきたいと思